

【巻末資料】

工事中における水の濁りについて

1. 工事箇所周辺の地点における基準値超過時の鉛直測定結果

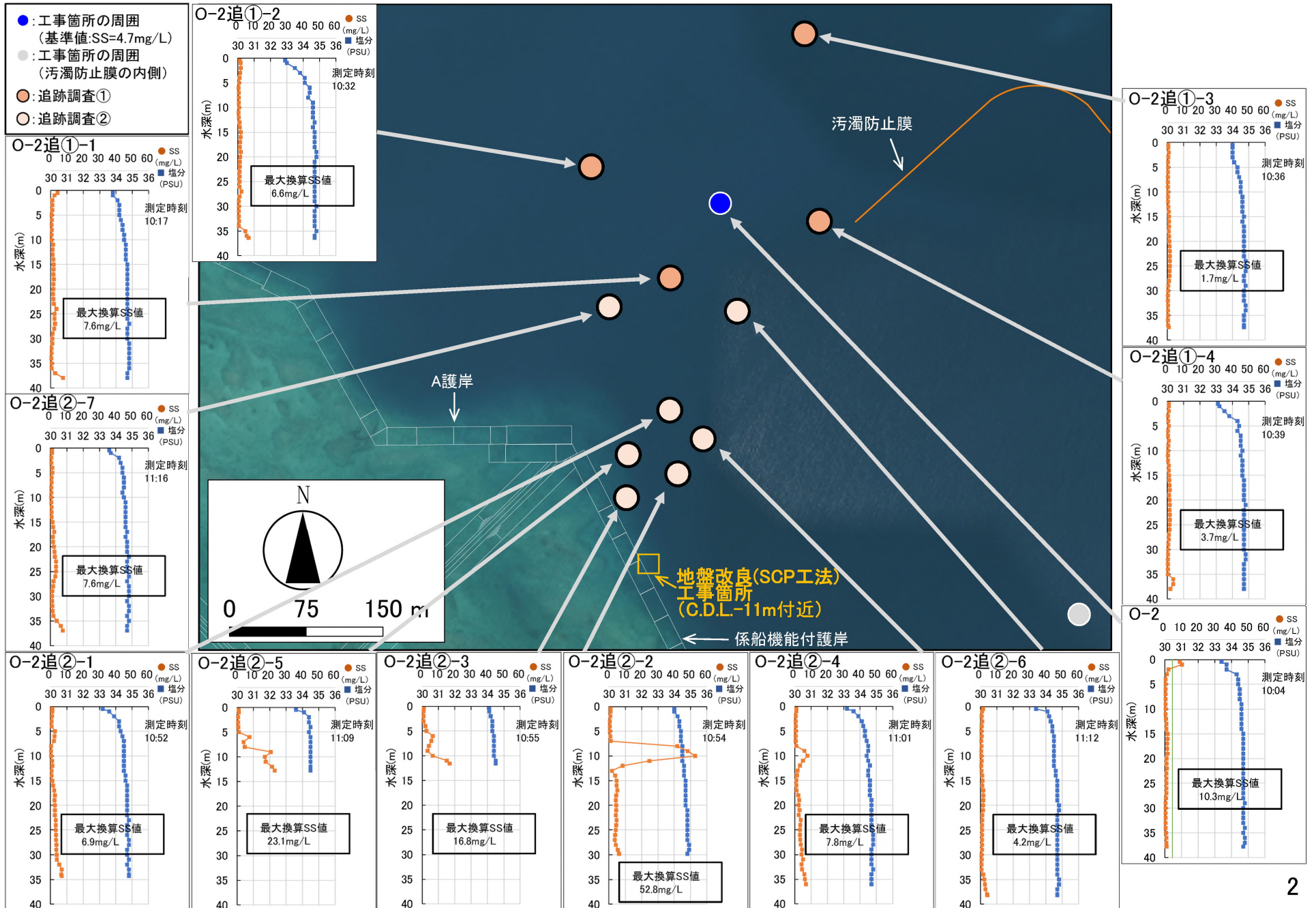
日曜及び祝日の工事の実施について

2. 日曜及び祝日の工事の実施に係る環境負荷について

1. 工事箇所の周囲の地点における
基準値超過時の鉛直測定結果

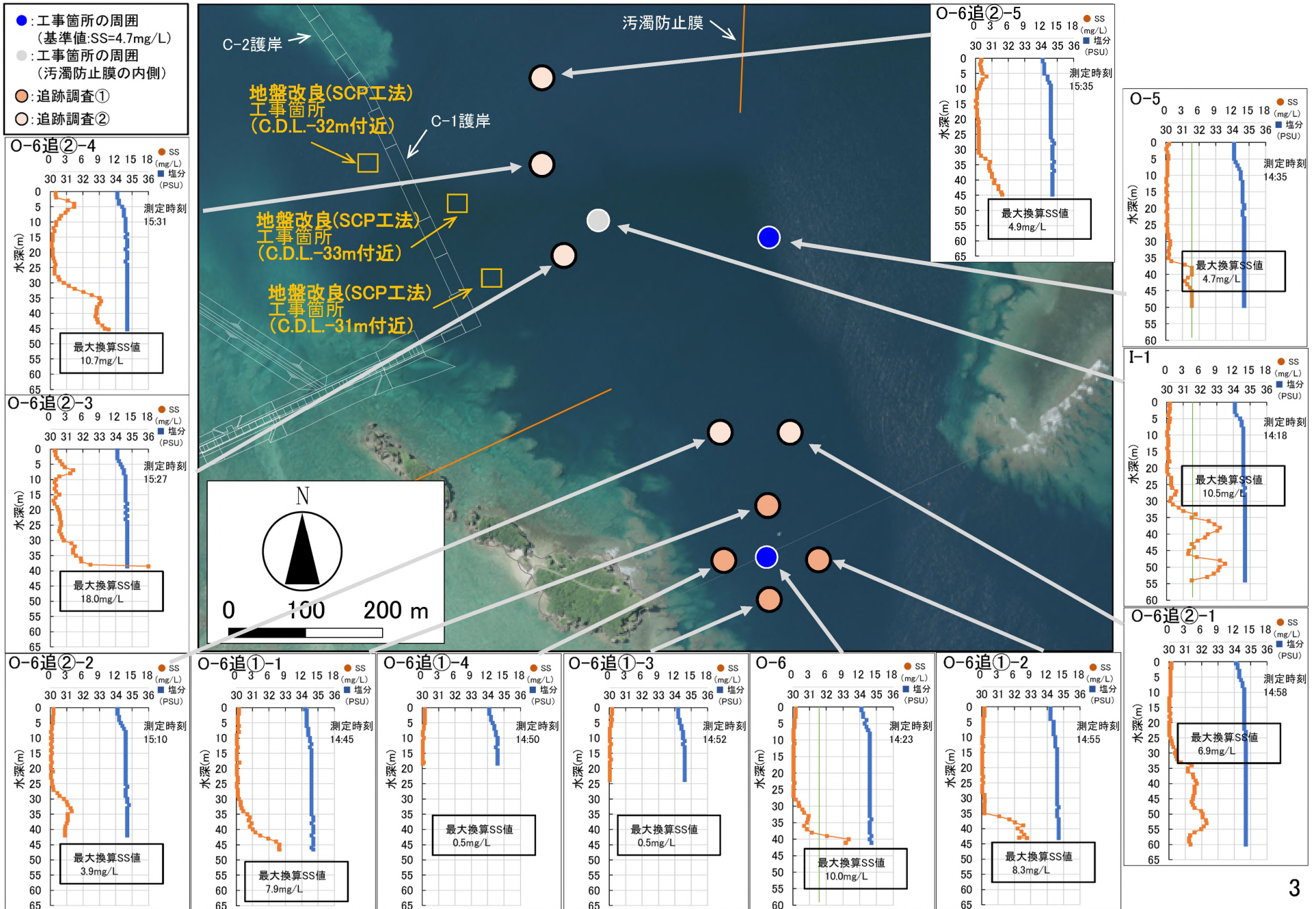
工事箇所の周囲の地点における基準値超過時の鉛直測定結果(1/2)

■ 令和7年5月17日(午前)



工事箇所の周囲の地点における基準値超過時の鉛直測定結果(2/2)

■ 令和7年6月4日(午後)



2.日曜及び祝日の工事の実施に係る 環境負荷について

日曜及び祝日の工事の実施に係る環境負荷について

○ 環境保全図書において、騒音及び振動に係る環境保全措置として、「夜間等工事を行う場合には、予め工事区域周辺の住民の方々に説明を行う」こととしていることから、日曜及び祝日の工事※の実施による騒音及び振動に係る環境負荷について検討した。

※ 日曜及び祝日に実施する工事としては、必要に応じ海上及び陸上(辺野古側埋立地)における工事の実施を予定。なお、新たな建設機械等の稼働は予定していない。

○ 騒音及び振動による環境影響が大きくなるのは、予測地点の近傍における工事の施工時であるところ、陸上(辺野古側埋立地)における日曜及び祝日の工事の実施箇所は現行の環境保全図書上の予測地点(沖縄高専及び辺野古集落)から少なくとも約1km以上離れており、距離による騒音及び振動の減衰が大きいため、以下の検討結果に示すとおり、同工事による影響は及ばない。

○ また、大気質、水中音、水の濁りについても検討結果を以下に示す。

➤ 騒音について

現行(変更後)の環境保全図書上のピーク時(予測対象時期)における建設機械等の稼働台数のうち、日曜及び祝日に実施する工事稼働する建設機械等(騒音発生源)を抽出した上で合成し、予測地点(沖縄高専及び辺野古集落)における騒音レベル(建設作業騒音)を計算したところ、34、42dBとなり、環境保全図書上のピーク時における予測値(50～57dB)を超えない。

➤ 振動について

現行(変更後)の環境保全図書上のピーク時(予測対象時期)における建設機械等の稼働台数のうち、日曜及び祝日に実施する工事稼働する建設機械等(振動発生源)を抽出した上で合成し、予測地点(沖縄高専及び辺野古集落)における振動レベル(建設作業振動)を計算したところ、計算結果は負の値となり、環境保全図書上のピーク時における予測値(39～42dB)を超えない。

➤ その他の項目の検討結果

項目	日曜及び祝日の工事の実施に伴う環境負荷の検討結果
大気質 (粉じん等を含む)	大気汚染物質の総排出量は、日曜及び祝日の工事を実施しても、現行(変更後)の環境保全図書のピーク時における大気汚染物質の総排出量の85%程度であり、ピーク時における予測値を下回る。また、日曜及び祝日の工事実施に伴い発生する粉じん等の予測濃度は、同図書のピーク時の予測濃度と同程度であるとともに、降下ばいじん※に係る参考値を下回る。
水中音	日曜及び祝日の工事の実施により新たに水中音を発生する工事は加わらないことから、同工事を実施してもピーク時の音圧レベル及び音響曝露レベルの予測値を超えない。
水の濁り	日曜及び祝日の工事を実施しても1日当たりの施工量は増加しないことから、水の濁りの予測に影響を及ぼさない。

※ 大気中に排出されたばいじんや風により地表から舞い上がった粉じんなどのうち、比較的粒径が大きく重いため大気中で浮かんでいられずに降下するもの、あるいは雨や雪などに取り込まれて降下するものをいう。